

がんばれば夢はかなう！ やればできる！ は本当なの？！



休みの日にある動画を久しぶりに見ました。それは2009年4月11日に放送された、イギリスのオーディション番組「プリテンズ・ゴット・タレント」で、スーザン・ボイルと言う女性が歌う場面です。

スーザンは脳に障害があると言われて育ち、病院での検査では普通の学校に入っても、やっていけるかどうかかわからないと言われるほどでした。近くの小学校に入学してからも、うまく人とコミュニケーションがとれず、自分から話しかけてもからかわれるし、友だちから避けられていることを感じて、中学校では、だれが友だちでだれが敵なのかわからなくなるほどでした。そんな彼女を支えてくれたのが、両親が大好きだった歌でした。スーザンはコンクールで賞をもらうほど歌が上手でしたが、プロの歌手になるためのオーディションを受けるのはこわくて、会場に行ったのに参加しないで帰ってきたこともありましたが、2007年にお母さんが亡くなった後、お母さんとよく見ていたオーディション番組「プリテンズ・ゴット・タレント」に勇気を出して申し込み、たくさんのお客さんの前で歌うことになりました。(2010年10月3日英国のインターネット新聞MailOnline インタビュー参照)



そのオーディション番組が、私が今回久しぶりに見た動画でした。

お客さんでいっぱい会場の舞台の前に審査員が3人座っているのですが、スーザンが舞台に出てきた瞬間、審査員があきれたように顔をしかめたり、お客さんがばかにしたように笑います。華やかな舞



台にお化粧もしないで、髪もぼさぼさのまま出てきた47歳の彼女に、審査員の1人が、からからかうように「将来の夢は？」と聞きます。「(ミュージカル)歌手になりたい」と彼女は自信満々に答えますが、会場からはあきれたような笑いが聞こえます。そこにいたみんなが、彼女の言葉を笑い、ばかにしている雰囲気画面からも伝わってくるほどでした。しかし彼女が口を開いてミュージカル「レ・ミゼラブル」の歌「夢やぶれて(I dreamed a dream)」を歌い出すと、会場の雰囲気が一変します。



審査員もお客さんも、そこにいる人たち全てが彼女の声に聞きほれて、驚いた表情になる人、笑顔に変わる人、感動で涙ぐむ人の姿が、画面に次々と映しだされます。歌手になるという大きな夢を持ち続けたスーザンの47歳までの人生は、この日歌った「夢やぶれて(I dreamed a dream)」の題名のように、夢を見ていたけれどかなわなかった、だめだった…という悲しい思いやつらい思いをすることが多い日々でした。だからこそスーザンの歌声は、この歌の悲しみ、苦しみ、痛み、でもたとえどん底の道でも負けずに前に進むのだという決意に命を吹き込み、人々の心をゆり動かしたのだと思います。彼女が歌い終わると、審査員もお客さんも立ち上がって拍手を送ります。そしてこの動画を見た世界中の人たちが彼女の歌に感動し、彼女は47歳でCDデビューをはたします。そう、スーザンはあきらめずにがんばって、歌手になるという夢をかなえたのです。



さて、先月のほけんだよりの裏面で紹介した「NHK 大河ドラマ 鎌倉殿の13人」で仁田忠常を演じたお笑い芸人ティモンディの高岸さんと言えば、「やればできる！」とみんなをはげます明るい笑顔を思い出します。しかしその高岸さんの笑顔の裏には、まじめに一生懸命がんばった結果、人に相談することもなく自分を追い込んでしまい、大切なものを失った過去がありました。(2022.4.10 ラブすぽ/Yahoo!ニュース Voice インタビューより)



高岸さんは、高校時代はとて野球が強い高校で、投手として活躍した人です。でも、大学ではけがと、精神的な問題でそれまでできていたことがうまくできない病気に苦しみ、大学3年生で野球をやめることを決めます。本当は野球を続けたかったのに、病気のことも、本当は野球を続けたかったことも、つらくてたまらなかったことも誰にも相談できず、野球が大好きだ、野球を続けたかったという気持ちを忘れようとしていたそうです。そんな高岸さんが以前の自分をふりかえってこういっています。

「これ以外は間違い」「これだけが正解」と決めつけていた。ぼくは今でもポジティブになったとは思っていないですけど、それでも当時の自分に声をかけてあげるとすれば「自分のペースでやっていい」「まわりとくらべる必要はない」「せっかく好きで始めた野球なんだから楽しくやってほしい」と伝えたいですね。

高岸さんはだれよりも「やってもできないことがある」ことを知っていたが、「やればできる」とたくさんの人を応援しています。反対のことを言っているように見えますが、全力でがんばったからこそ、やれるだけやったからこそ、たとえかなわなかったとしても、違う道が開ける、その経験はむだにはならない…そんな気持ちがこもっているのかなと思います。実際高岸さんは今年、プロ野球独立リーグのルートインBCリーグ・栃木ゴールデンブレーブスに加入し、ピッチャーとしてマウンドに立つことができました。プロ野球選手をあきらめた大学4年生の時には想像もしていなかったことだと思います。

実は最初に紹介したスーザンボイルも、歌手になるという夢をかなえてからとても大変でした。突然スターになって環境が変わったことで精神的に不安定になり、病院を受診したところ発達障害と診断されたそうです。その後も様々なトラブルにあい、しばらく休養していた時期もありましたが、2019年にベスト盤のアルバムを発売するときのインタビューでこのように答えています。(スーザン・ボイル | ソニーミュージックオフィシャルサイトインタビューより)

「私にとっての成功は、人々をハッピーにすること。それを自分の音楽を通じてすることができれば、私の辞書ではそれが成功を意味するわ。」



文化祭も終わり、3年生は就職や進学などの進路を決めるために大変な人もいるでしょう。中には、希望した学校や希望した会社に入ることができない人がいるかもしれません。特に就職は、受からないことが続くと「どうせがんばったってだめなんだ」「もうやってもしかたがない」と投げ出してしまいたくなるかもしれません。「夢やぶれて(I dreamed a dream)」自分の希望とは全く違う道を選ばないといけない人もいるかもしれません。やればできると思ってがんばったのに、うまくいかずにあきらめてしまう人もいます。でも大切なのは「夢」は何なのか。「あなたが欲しいもの」は何なのか。就職や入学がゴールではないはず。高岸さんで言えば、大学卒業後にプロ野球選手になることはできませんでしたが、「やればできる」と自分を上げてきた言葉そのものがお笑い芸人になるという夢をかなえてくれました。またお笑い芸人でがんばり続けたことが、プロ野球独立リーグ入団と言う夢をかなえてくれました。スーザンボイルも、外から見れば有名な歌手となり「夢」をかなえたように見えますが、彼女にとっては有名になることやお金持ちになることが「夢をかなえる」ことではなく、自分の音楽で人々をハッピーにすることが本当の「夢」であり「成功」だと気がつきました。



「がんばれば夢はかなう！ やればできる！ は本当なの？！」と聞かれれば、「それはわからない」けれど、「がんばったこと」や「夢をかなえるために努力したこと」は決してむだにはならないと答えます。それは3年生だけではなく、これから上尾橋高校でたくさんのことを学んだり、新しいことに挑戦したり、目標に向かってがんばる時間がたくさんある1・2年生も同じです。あなたを応援してくれる先生や、同じようにがんばっている先輩・同級生・後輩がいる中で、夢があってもなくても「やってみる」「がんばってみる」経験をたくさんしてほしいと思います。ティモンディの高岸さんの言葉をかりれば「自分のペースでやっていい」「周りと比べる必要はない」「好きで始めたことは楽しくやってほしい」と思います。もしなにをやっているかわからないとき、夢も目標も決まらないとき、そして「夢やぶれてしまった(夢がかなわなかった)」ときには、ティモンディの高岸さんのように誰にも相談しないで苦しい思いをするのではなく、友だちや先生、そして保健室で話をしてみませんか？話すことで気持ちが楽になったり、新しい目標が見つかるかもしれません。

